

# Web版

## ことぶき共同診療所だより 第 27 号

2009年6月16日発行

横浜市中区松影町 2-7-17 リバーハイツ石川町 1・2F  
電話とファックス 045-651-2305(診療所) 045-305-4322(鍼灸院)

E-Mail info@kyoudouclinic.com

http://kyoudouclinic.com

発行：医療法人ことぶき共同診療所

## 目次

- 1 4年目を迎えました ..... 鈴木 伸 ②
- 追悼 岡田弘さん 中村英治さん ..... ⑤
- 田中俊夫 田中藤枝 矢島雅子 中田愛子 加固実里 (元診療所職員)  
島田聖也 (自省館) 大淵義博 (寿福祉プラザ) 新井育子 鈴木伸  
川崎正明 関屋光泰
- “診療室から” (23) — “三人の診察室” — ..... 田中 俊夫 ⑮
- 『寿町ドヤ街』第5号—寿町における医療—について・・・ 寿町関係資料室 ⑮
- 寿町地域ニュース・あらかると(2008年11月～09年5月)
- 退職の弁 ..... 小坂 文美 ⑰
- 職員自己紹介 ..... 佐藤 木綿子 ⑱
- 診療所日誌(2008年11月～09年4月) ..... 矢島 雅子 ⑲
- 共同診療所・鍼灸院ガイド ..... ⑳



## 14年目を迎えました

### 【はじめに】

最近年をとったせいか、はたまた、毎日の診療に追われているせいか、月日の経つのがものすごく速く感じられるようになりました。この間13年目の話をしたと思ったら、もう14年目です。こうして、しらずしらずのうちに年をとっていくのですね…。「光陰矢の如し」とはよく言ったものだ実感する今日この頃です。

### 【診療所を去る方々】

平成20年11月から勤めてくださった看護師の小坂文美さんが3月一杯で退職されました。もともと診療所に勤められていた土屋先生からタイで当院を紹介され、帰国後、11月から勤められました。バリバリの関西人ですが、初々しい笑顔で診療所の患者さんたちのアイドルになっており「あの子がくれるとまずい抗酒剤もおいしくなる」(笑)との

感想も聞かれました。もともとの夢であった助産師の資格を取るべく大学で勉強することになりました。また、もどって来たいという言葉信じて待つことにします。

この間、平成18年10月から診療所に来てくださり、日々の診察でご尽力いただいていた天田大輔先生が平成21年の5月をもって診療所を退職されることになりました。天田先生は、「総合医」として離島で診療実績をつみ、内科はもとより整形外科、精神科にいたるまで診療して頂きました。どんな場面でも落ち着いて冷静で、それでいて粘り強く、最後の最後まで患者さんに寄り添うというスタンスを貫いていました。実は私とは大学の同級生なのですが、傍からみていて「すごいなあ」と思い、ひそかに天田先生の診療を学ぶべくとなりで聞き耳をたてながら診察をしていました。患者さんの信頼も

厚く、また、さわやかな風貌でヘルパーさんや、院外の看護師さんなどにも幅広いファンがいたのですが、今回長年の夢であった海外での医療活動を行うということで、泣く泣く診療所を送り出すこととなりました。また、寿町にも戻ってきてくれることを願いつつエールをおくりたいと思います。この2年半、ありがとうございました。

#### 【診療所にくる方々】

また、5月より宮崎伸一先生が毎週火曜日に勤務されることとなります。宮崎先生は、現在東京都内の精神科病院に勤務されていらっしゃるのですが、出身地が診療所の近所ということもあり、診療所の存在は以前から目にされていて、「いったいどんなところだろうか」と長年気になる存在ではあったようです。今回、ホームページを見て、当院の診療活動に興味を持ってくださり、来てくれることとなりました。今後ともよろしく申し上げます。

また、海外に留学されていた土屋洋子先生が6月より診療所に復帰されます。海外でパワーアップした成果を引

っさげ、以前にもまして力のこもった診察になることが予想されます。ご期待ください。

また、鍼灸師の佐藤木綿子先生が平成20年1月から勤務されています。もともと海外の大学を卒業後、日本の大学院で文化人類学を専攻し、離島のフィールドワークをされていたというすごい経歴の持ち主ですが、その後、鍼灸の道を志し、現在にいたるとのことです。出身の高知県の太陽に負けない、その屈託のない明るさで、早くも患者さんに人気の様子です。今後ともよろしく申し上げます。

### 【見学者増える】

昨年より、日野病院に研修中の研修医の方が毎月見学に来てくださっており、診療所にとどまらず、関係諸機関にお願いして自立支援施設「はまかぜ」、寿福祉プラザ、寿アルクなど町の施設の見学をしてもらっています。見学の感想はおおむね好評のようです。また、滋賀医大、和歌山医大、千葉大、三重大、自治医大、信州大など様々な医学部の学生さん、看護学生さんの見学が増えました。来る経路は様々で、人づても多いのですが、ホームページをみてきてくださる方も多いのにビックリします。ホームページは当初なんとなく作って見たらという感じで始めたのですが、意外にその影響力は大きいようです。



### 【長年の患者さん

#### 相次いで亡くなる】

診療所開設当初からの患者さんであった岡田弘さん、中村英治さんがこの間、相次いで亡くなりました。お二人とも診療所との関わりは深く、忘れ難い思い出も数々ありますが、その詳細は後の追悼文集にゆずりたいと思います。謹んでお二人のご冥福をお祈りいたします。

### 【デイケア 10 周年】

ことぶき共同診療所にデイケアができて、今年で 10 周年を迎えます。さまざまな病気の患者さんを受け入れ、アットホームな生活の中で個人個人を大切にしながら、調理、音楽、茶道、エアロビクス、習字、農業、キャンプ、旅行などなど幅広いカリキュラムを行い、試行錯誤し、工夫しながら疾走した 10 年間であったと思います。10 年という区切りの年を迎えましたが、スタッフ一同、私も含めて協力しながら、今後もより一層充実したデイケアを作り上げていければと思います。

(鈴木 伸)

## 追悼 岡田弘さん、中村英治さん

当所の患者さんの岡田弘さんが2月13日に、中村英治さんが4月14日に急逝されました。お二人とも診療所開所以来、つまり13年来の患者さんで、診療所と共に歩んでこられたいわば、生き字引のような存在です。そして診療所の新しい職員をすぐに引き付けてしまうという不思議な魅力を持った二人でもありました。そう、忘れえぬ人であったのです。謹んでご冥福をお祈りします。(岡田弘さんの写真は、自省館の島田さんより送っていただきました。心よりお礼申し上げます。)

### 岡田弘さんへ

#### 岡田弘君 逝く

“忘れられない人”って何だろう。

岡田弘君が死んでしまった。自室で死んで発見されたので、多分2月12日に、彼はなくなったのだらうと云われている。36歳の若さである。

彼は、7年の長き不在の後に、去年の秋、ひょっこりと又、寿へ戻ってきた。まさにひょっこりとである。確か彼は13～14年前に、死んだ園田君と一緒に新宿から寿へ流れてきた。そしてあつという間に私達の間で有名人になり、あつという間に“忘れえぬ人”になってしまった。おそらく彼を知る多くの人にとってそうであったと思う。

40年以上寿に係っている私は、多分見知っている数百人の人と死別していると思うのだが、その中で自分が死ぬ迄、決して忘れる事はない(顔も名前も雰囲気も)と確信できる人はそう多くはない。仲間であったと云える人や、特別な能力をもった人は勿論忘れられない。しかし、何で岡田弘が忘れえぬ人なのだろう。久松君や、伊藤紀明君等々と共に、彼は私の心の中に一生、生き続

けるだろう。それは久松君が統合失調症で、伊藤紀明君が知的障害者で、岡田君がアルコール依存症であるからではない。岡田君を上廻る大酒飲はたくさんいたのであり、お騒がせマンもいた。ハヤト等はその一人であったと思う。

じゃあ岡田君の何がそんなに印象的なのか。それはおそらく、彼のもっていた「善良さ」と「ひとなっこさ」に由縁するものだと思う。彼はいつ迄も、あの口を少しとんがらかして文句を云う少年の顔で、ニット歯を見せた照れくさそうな青年の笑顔で、私の心の中に生き続ける。

結局皆な本当は彼を好きだったのだ。もっと彼を守ってあげたかったのだ。ちゃんと出来なくて御免ね。岡田君。

(田中 俊夫)

#### 岡田弘君を悼む

岡田君が亡くなった、と聞いてもはじめはなんのことか意味がわかりませんでした。本当にショックでした。ちよつと前に診療所のカウンター越しにふざけて

握手をしたばかりでした。人懐っこく、甘えん坊で、でもどこか頼りなげで、口をとんがらせて笑っている、いつもの弘君でした。

岡田君は、診療所が開設されてから間もなく、まだ夜間診療の時期に兄貴分の園田君とともに新宿から寿にやってきました。それからの長い付き合いになります。その園田君もずいぶん昔に亡くなっています。夜間診療の診察時間がきても先生が到着せず、いっこうに診察が始まらない時があると「先生まだかよー」と声をあげるのは岡田君でした。受け付けの私もいつものように「まだ高速道路をおりられないのかもねー」と答えたりしていました。岡田君は、よく酔っ払って待合室の床にイモムシのようにはいずっていましたが、中央浩生館に入所した時は、こざっぱりとリュックをしょって少年のような感じで闊歩していて全く別人のようでした。グループホームに入所できて、診療所のスタッフ数人で訪ねた時、天気の良い日曜日なのに、ぐでんぐでんに酔ってでむかえてくれて、部屋に案内されたら明るい新築の部屋に万年床と酒びん。私たちは内心のため息をかくして、何も家具のない部屋に小さいテレビを据えてあげて帰ってきた、忘れられない光景。相模湖病院に入院中も皆でお見舞いに行きました。彼が20代前半から36歳までのずいぶん長い付き合いでした。でも今になって思うと、彼と一緒に遊んだり、稲子などで共に過ごしたりということは

ありませんでした。本人が希望していたデイケアにも受け入れてあげられませんでした。葬儀の時、自省館関係の方達が沢山見え、その4年間の生活の様子が聞けて、本当によかったと思います。人間関係に恵まれ、時々スリッパはあったものの、生き生きとした穏やかな数年間が想像でき、そういう時間があつたことに少し慰められる気がしました。岡田君とは医療機関と患者さんという関係を越えた付き合いができたなら良かったのにと思いました。そして思ってもいなかった突然の別れ。本当に残念で思いはつきません。あの笑顔を一生私は忘れないでしょう。

(2009年3月15日 田中 藤枝)

### おかだひろしくんのこと

弘が死んだ。弘が死ぬなんて思ってもみなかった。いずれまた寿から出て行き、また新たな生活が始まって、未来が続いていくものとばかり思っていた。

だが、冷たくなった弘はちっちゃな骨になってしまい、姿がみえなくなりました。ただ、きちんと骨壺に収められ、お家に帰る事が出来た事が、私にとってはほんの少しの救いだった。そして、ご両親を始め、自省館や支援センターの職員が駆けつけ、彼が色々な場所で愛されていたんだと実感した。でも、彼はいない。

弘と私は同郷で、地元の話もよくした。最近分かった事だが、その頃というのは中学だけのことだった。でも実は生ま

れは東京で私の出生地の隣町であった。なんだか、縁があるね～、その昔どこかであっていたのかもね～と話し、そんなこともあったからか、近しい存在でもあったのだ。

私が岡田さんと初めて会った日のことは覚えていないが、もう10年以上前のことだと思う。新宿からやってきた岡田さんは寿の越冬中、寿公園で一世を風靡していた。酔っ払って、何度も痙攣発作をおこし、公園内で倒れていた。何度目かの発作の後、目覚めなくなり、安静を兼ねてプレハブで寝てもらったのだが、しばらくたっても起きなかった。越冬に来ていた医師があわてて診察をした所、ただ事ではないと市大病院に連絡し、救急搬送、同行した医療班メンバーがなかなか診察が終わらないので、病院の職員に聞いた所、急性硬膜下血腫を起こしており、緊急手術中だと言われ、所持金10円を渡されたという。彼が足を引きずって歩いているのはその後遺症だと思われる。

その後も何やかんやと騒ぎを起こしてくれたが、憎めない存在であった。甘えん坊でさびしがりやで、それでいて生真面目で、悩み深き青年は私と共に年をとり、今更「大好きだよ」と抱きしめるわけにもいかず、甘えん坊は甘え方を知らずに逝ってしまった。

寿町で出会った数少ない私の友人がまた一人いなくなってしまった。莫迦な弘、勝手に一人でひっそりと旅立つなんてずるいよ、そして・・・、何もできな

くてごめんね。

(矢島 雅子)

### 岡田弘くん

岡田さんと初めて会ってから11年が経ちます。「まだ若いのに、なぜ寿に？」最初に思ったことでした。いつもいつも酔っ払っていました。お酒を飲んでいない時に会うことってあったっけ？と考えないと思いつけないくらい、いつもへろへろな状態でした。そんな岡田さん、同い年だからなのかなんか気になる存在でした。カウンターに張り付いてダラダラおしゃべりしたり、カウンターや壁を叩いたり蹴ったり、床に寝転がってみたり。「もう！酔っ払い！」と腹は立ちましたが、憎めませんでした。笑顔のせいでしょうか。岡田さんの笑顔を見ると「しようがないなあ。」となんとなく許せてしまうのです。

診療所に11年もいると「人の死」ということに嫌なことです。慣れてしまいました。患者さんが亡くなったと聞いてもあまり驚かなくなったというか……。岡田さんのことを聞いたときもそれほど驚きませんでした。亡くなったことが信じられなかったからでしょうか？でも火葬場で顔を見たらやっぱり涙が出ちゃいました。もう笑っておしゃべりできないんだなあ、と思うと胸が苦しくなりました。岡田さんが久しぶりに寿に戻って来た時、私の名前をちゃんと覚えていてくれて「愛ちゃん」と声をかけてくれました。口にはしなかったけど本当はすごく嬉しかったで

す。もう忘れられてると思っていたので。岡田くん、どうもありがとう。岡田くんのご事は忘れたくても忘れられないので一生忘れません！

(中田 愛子)

岡田くんは岡田クンのまま死んでしまいましたね。彼は、彼なりの直面したくない思いを抱えたまま天国に行ったのかなと思います。

でもそれで良いのかなど。

天国でよく頑張ったな～と自分(岡田くん)を振り返ってくれていたら嬉しいです。

彼の人生を傍らのかたわらで、見守らせてもらったことを幸せに思います。

やっぱり最後は感謝かな…。

ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

(元職員 加固 実里)

## 岡田弘さんへ

### — 自省館（救護施設）、寿福祉プラザの職員の方から —

岡田弘さんは4年前に自省館に来られました。事前情報では、トラブルも多く退院しても行き場の無い難しい人だけれども担当してみないかということでした。情報どおり、入所してすぐに飲酒をし、3ヶ月の解毒入院。退院して翌日にはまた再飲酒し、すぐに入院となりました。面会には行きましたがほとんど関わることは出来ませんでした。2度目の入院で車に乗り込むときに「担当替わってしまうの？」と言われ「替わらない」と答えたことを思い出します。しかし入院とともに施設としては退所の検討もしなければいけませんでした。結論として、本人にやる気があるならばラストチャンスを与えてみようということになりました。私としても情報どおり、落ち着いた生活は無理ではないかと半分諦めもありましたが、不思議なことにそれ以降はお酒を断つことができていました。それからは彼と話をする時は、他の職員が居る前で話をし、皆が岡田さんの存在を認め、自省館が安心できる居場所であることを提供するよう努めました。年月が経つにつれ甘えも出てきたと思います。甘えたことを言うと私はいつも怒っていました。でも岡田さんの口からは「自省館だから甘えられる」「担当だから許してよ」とおっしゃっていました。一度私は彼に事務所の中で首を絞め

られたことがあります。彼はじゃれてきただけでしたが、手加減が出来ないため、かなり苦しい思いをしました。私にとっては暴力行為であり大問題だということもありましたが、周りに居た職員は全員こちらに一瞬目を向けましたが、また二人でじゃれあっているんだと無視されてしまいました。それほど自然な関係が出来ていたことはある意味喜ばしいことでした。彼に安心した環境を提供できたことも良かったと思います。彼の人生の中で自省館での4年間が一番安心できた居場所であったと思います。寿に戻ってからも毎日電話をしてきたり、こちらから出向いたりもしましたが、もう一度自省館でやり直し、担当をする約束をしたところでの結果に本当に残念に思っています。

（救世軍自省館

島田 聖也）

#### 0さんとの関わりを振り返って

二月十三日夕刻、それは区役所の担当ケースワーカーからの突然の連絡であった。「帳場さんからの連絡で、0さんが亡くなったとの連絡が入りました・・・」。

同僚職員が電話を受け、直ちに彼の部屋に向かった。部屋の前に救急隊二名が到着していたが、既に彼は亡くなっており、後は警察の到着を待つ

いる状況であった。

彼が、四年近く在籍していた救護施設を自己退所し、寿町に戻って来てから約四ヶ月、あと十日程で、町から離れ入院することも決まっていた矢先、このような形で、突然の別れを経験するのは予想していなかった。

私は、彼が在籍していた救護施設では施設職員として、そしてこの寿町では町の相談員として関わりを持たせてもらった。相談員としての関わりは本当に偶然であった。配属先がたまたまこの町だったというだけで、だからこそ、今になってみると何か深い縁を感じている。

三年前まで、私が約十年勤務していた救護施設は、アルコール依存症の方々が対象で、そこでの経験や知識から、病気の特徴は理解しているつもりであった。例えば、今回の彼のように「長期間断酒していても、再飲酒すると、心身共に崩れていってしまうペースが早い」ということや「アルコール依存症は

死に至る病気である」ということである。

しかし、考えてみると、施設では飲み続けている人は、直ちに入院等の支援を挟むので、そこで飲酒状態を続けていくようなことはなかったし、何よりも長く関わって死に直面するという場面もなかった。

今回彼の死に直面し、一体これまでの自分の経験や知識は何であったのかと、考えさせられている。この町の高齢化率やアルコール依存症等の病を抱えた人の数を考えてみれば、ここはある意味「死と隣り合わせの町」であることも理解はできる。

彼の死から三ヶ月以上が経過した。自分は彼の死をどのように受け止めたのか。湧き上がってくる悲しみや後悔といった感情を認め、そこから一步踏み出すことが必要と思いつつも、正直なところ、まだまだそこに向き合えない日々が続いている。

(横浜市寿福祉プラザ相談室

大淵 義博)



---

## 中村英治さんへ

---

### 中村さんのこと

毎週水曜日午後三時四十五分、この時間になると中村さんはいつも鍼灸院に来てくれていました。私が「どうぞ」というと、「もういいの？」と中村さんはなんとなく遠慮がちに入ってきます。もう六年以上も通ってきてくれていたのに。

中村さんは熱いのは全然平気でどんなにお灸をすえても、びくともしませんでした。むしろどんどんやってほしい感じでした。治療中は体の話はそこそこに大好きな将棋のことや夕飯のメニューは何にするかなど本当になんでもないことを近況を交えてお話ししました。断酒は本当に頑張っていました、実はとても飲みたくて仕方がなかったようです。

「股関節の手術をして元気になって会おうね」と言って別れたのが二月。退院してきたと聞いて今日顔を見に行こうと思っていた日に訃報を聞きました。断酒にも成功し、ダイエットにも成功し、股関節の手術も成功し、中村さんは全てやりとげて旅立っていったのだと思います。お疲れ様でした、中村さん。そして色々とうりやうございました。

(新井 育子)

### 中村英治さんのこと

中村さんと初めてお会いしたのは、H15年の5月、僕がちょうど診療所に赴

任してすぐのことでした。大の将棋好きだが、なかなか周りに相手がいないのでとのことで、同じく将棋好きの私と対戦することになり、その後何度か盤上で対決することになりました。中村さんの将棋は、振り飛車、居飛車にこだわらずきれいな差し回しをする方でした。寿町の大会では、何度か2位にはなるもののどうしても優勝できず、「もう一歩なんだけど、強い人がいるんだよなあ。」といつもうれしそうに語るのでした。将棋指しにとっては、自分が勝つことはもちろんうれしいのですが、自分より強い人がいて、その人になんとか勝とうとあれこれ思案し、戦略を考えるのがそれ以上に楽しいことなので、その気持ちはよくわかりました。また、普段は関西に住んでいて年に一回横浜にやってくる将棋の強い「岡さん」との対戦を何よりも楽しみにしていました。そして「岡さん」と対戦してコテンパンに負けた後には「やっぱりあの人はレベルが違う」とやはり「うれしそう」に語るのでした。

将棋の付き合い以外にも、中村さんとは医者－患者という形での付き合いもありました。中村さんは実は診療所ができた当初からの患者さんで「アルコール依存症」という持病がありました。僕が寿に来た時にはすでに8年も通院していたのですが「断酒」というにはほど遠い状態で、「おれは酒はやめないよ」

と公言してはばかりませんでした。周囲も中村さんが酒をやめるのは「奇跡」が起きない限り無理だろうと思っていました。しかし、その日は以外にも早くやってきました。あるとき酩酊して階段から転げおち、足を痛めたのです。いままでも何度も酩酊して怪我をしたことはあり、それでもお酒は止まらなかったのですが、その時は違いました。「このままいくと死んでしまうんじゃないか」と思ったとこのことで、「もう俺は酒をやめる」といきなりみんなに宣言したのです。僕も、周囲も「冗談かな？」と思っていたのですが、その言葉は本物でした。自助グループにはいかなかったものの、抗酒剤を自らのみだし、あれよあれよと断酒は継続していくのでした。作業所の佐藤真理子さんが1ヶ月ごとにオリジナルのメダルをつくって表彰すると、中村さんは嬉しそうに診療所にそのメダルをつけて登場しました。そして、診療所の女性スタッフと抗酒剤を片手に記念撮影をするのが恒例になりました。そして、ときには「やっぱり、おれ、酒のんじゃおうっかなあ」とすねて見せたりすることはあったのですが、なんと亡くなるまで58ヶ月も断酒が継続したのです。僕は、アルコールの患者さんと接することが多いのですが、スリッパをなんどもなんども繰り返す患者さんがいてあきらめそうになるとそんなときは中村さんのことを思い出してなんとか救われました。

そんなお酒をやめ、元気で生活していた中村さんが、こんなに急に亡くなる

とは夢にも思いませんでした。いまだに、まだ、その辺で将棋をやっているような気がします。寿医療班のミニコミ誌「空」にもずっと自作の詰め将棋を連載していたのですが、遺作となる詰め将棋は、なかなか難しいのですが、解けたときには「ああ、なるほど」と思わせる美しいものでした。デイケアのメンバーさんが書いていたのですが「天国で(将棋の)名人戦を楽しんでください」ということばで、中村さんの思い出を締めたいと思います。さようなら、中村さん。

(鈴木 伸)

### 中村さんを追悼する

中村さんと将棋して勝つにはコツがある。じっくりと攻めるのである。早指しでは、負ける。振り飛車で攻められて、3連敗したことがあるが、最後の試合は、中村さんが読み間違えてわたしが勝った。五分になるところが、6勝4敗になった。もうこの数字は変わらない。

中村さんは、寂しがり屋だった。誰かに自分を注目してもらわないと不安でしよがなかつた。

稲子に行くときも、動物園に行くときも、行きたいのに、いつも行くかどうか決めかねていた。最後には行くことになるんだけど、理由は足手まといになるんじゃないかという悩みだった。バスから降りてトイレに行くまでに間に合うだろうか、車いすでは、押す人が迷惑じゃないだろうか。あれこれ悩みは尽きなかったようである。そんなに心配することはなか

ったのにね。

酒。4年前、わたしが診療所に来る前であるが、酒で中村さんは痛い目にあった。それ以来、酒を口にしていない。ビール飲みたいな、といつも言っていたが、診療所や作業所の人と別れることになることを考えると、飲まない、と言っていた。飲み屋に行きコーラで刺身を食った、などと冗談か本当かわからないことも言っていた。たぶん本当ですね。頑張ったのである。

股関節の手術をすることを最終的に決意したのは、今年に入ってからである。手術しないと近いうちに歩けなくなると医師に言われ、迷ったあげく、3月に市大病院に入院した。入院のためにいろいろ買いそろえ、準備して福浦に行った。手術は10時間以上かかったらしい。2日後、見舞いに行ったら、大成功だ、と大喜びしていた。うれしそうだった。それから10日後、リハビリ室に車いすで行っている、3週間すると、いつ退院できるかわかる、と言っていた。

突然、野島公園近くの済生会若草病院に転院することになった。リハビリのためである。転院して2日後、見舞いに行くと、知らないうちに寝返りして、股関節が外れた、と天井を見つめながら話していた。「ここは遠いから来たくなかった。早く退院したい」。寂しかったのである。

そして4月の10日の退院が決まった。8日に見舞いに行った。久しぶりだったので中村さんはよろこんでいた。「早い

けれどいいの」と言うと、もう決めた、と言う。明日介護タクシーがくる、とも。

4月10日、退院した中村さんは、診療所にきた。そして11日、デイケアに参加した。「川崎さん、火曜日、頭刈ってくれるかな」「いいよ」それが最後の会話だった。4月12日早朝、中村さんは亡くなった。

もう中村さんの部屋に行くことはない。テレビがつかなくなった。エアコンが故障だ。窓がよく開かない。電気ヒーターに水が入った。炊飯器がダメだ。わたしは中村さんの修理屋さんだった。もう修理依頼は来ないのである。

思い残したことは多い。中村さんが急に逝くなんて、考えもしなかった。

(2009年6月8日 川崎 正明)

## 中村さんへの10年間の 感謝と追悼

正直なところ、まだ中村さんが亡くなった実感は薄い。入院か、ことぶき福祉作業所の行事で出かけていて、いつかデイケアに帰ってくるのではないかも思ってしまう。

中村さんは、当診療所の精神科デイケアの、開設当初からのメンバーである。将棋が強かった中村さんは、その対局の相手を求め続けた。私は、相手を見つけてくることを、軽く引き受けたものの、あまり果たせなかった。また、最初の頃、アルコール依存症だった中村さんは、時に飲酒したのか、赤い顔で診療所に来ることもあった。「(抗酒剤)効くなあ」

と言っていたが、少量のアルコールで酩酊出来るという意味である。時に、印象に残ることばを発する人であった。やがて、中村さんは断酒を果たしたが、アルコールに代わるものを見出せたのか。中村さんはその心中を「部屋に独りでいると、四隅から風が吹き込んでくるようだ。(酒の)白鶴を一杯飲めば、薔薇色になるのに」とも語っていた。その苦しさに対し、私が出来たのは僅か数冊の本を貸した位で、断酒の前も後も、自分の無策が悔やまれる。また、遠出が好きであった中村さんは、行事のほぼ毎回、不自由な脚では無理な階段がある等の理由で、行けない、行かない等と言っていた。それは、行きたいからサポートして欲しいのが本心であるのに、プライド等が邪魔するなかでの、精一杯の意思表示であったと思う。それを、常に察することが出来たのか、自らの鈍さに気付かされる。

中村さんは、およそ 10 年間、様々な波乱万丈がありながらも、踏み止まり、デイケアに通い続けた。支えてくれる様々な人の繋がりをつくりながら。ある時、私に対して「人生いろいろだよ」と言ってくれたのが、特に印象に残っている。

きっと、薔薇色の良いところに、中村さんは笑顔で出かけたのだろう。

10 年間、通い続けてくれて、本当にありがとう。

(関屋 光泰)

# “診療室から”(23)

## “三人の診察室”

イラスト ikuko arai



私は、基本的に、三人で診察することになっています。三人とは、私と患者さんと、看護師さんです。私も、昔勤務医をしていた頃は、外来では大きな診察室で、患者さんと二人きりで話しをしていました。

しかし、診療所を開設してからは、ほとんど三人の診察室でやっています。と云っても、初めの頃は、意図してそうしたのではなくて、何しろ場所が狭くて、診察室も一つしかなく、その中にベットも心電図もエコーも、薬棚でさえも詰め込んであったので、唯一人の看護師だった矢島さんも、私の側にいるしか、居場所がなかったのです。そして診察机に向って坐っている私の前方、つまり待合室へと開くドアの脇の凹んだ所に居て、「何々さん、どうぞ…」とドアを開けて呼び込みをやっていたのです（“バー矢島”のママさんのように）。当時はインターク室もなく、初診であってもその場で「どうしたの？」から会話が始まり、話しながらも、血圧測定や採血が目の前で同時進行し、という感じでした。一つには、精神科の患者さんと云ったって、内科疾患もありそうだという人がたくさんいたし、けが人から風邪っぴき迄来るので、簡易健康診断をやっていたようなものです。しかしそのうち、そういった実用の面ばかりでなく、二人より三人のほうがいいのではないか、と思うようになりました。医者と患者の二人だけだと、えてして上下、強者と弱者、指示者と被指示者という風に、関係が二分され易いのではないか。もっと単純には、二人ではしゃぐより三人ではしゃいだ方が楽しいのではないか。二人で問題点を探すより、三人で探したほうが気づきが多いのではないか、男性の御老人は、孫のような看護婦さんに血圧を測ってもらったり、世話をしてもらった方が嬉しいのではないか…等々です。これは私がさぼりたくて考えだした理屈ではありません。当診療所がこんなに患者さんを集めるようになった最大の理由は、受付のやわらかさと、気軽さ、看護師さんの優しさ、明るさだと、前々から思っていました。その上で、“三人の診察室”も少しは良かったかな、と思っているのです。

(田中 俊夫)

5  
2009年  
2月刊行

寿町関係資料室『寿町ドヤ街』第

特集 寿町における医療―内科、精

エコー検査室、鍼灸、心理判定

神科、

はじめに・・・松本 一郎

1 診療所におけるプライマリケアと外来患者動向からみた地域医療の現状と課題・・・天田 大輔

2 ことぶき共同診療所におけるアルコール依存症患者の精神疾患の合併と治療・・・鈴木 伸

3 ことぶき共同診療所腹部超音波検査・・・鈴木 美奈子

4 寿町における鍼灸治療・・・新井 育子

5 ことぶき共同診療所における心理検査業務の報告と今後の課題―知的障害のある人々を中心に―稲見 麻里

6 寄稿 新宿における野宿者の健康と地域生活移行支援事業の影響・・・新宿連絡会・医療班／大脇甲哉・金沢さだ子・中久木康一・稲葉剛

さつりこ・・・日付 変更

## 寿町地域ニュース・あらかると (2008年11月～2009年5月)

【パン券宿泊券】寿福祉プラザ 2F 法外援護相談窓口閉鎖 ('09. 2. 27) 【簡易宿泊所】別府荘が萬寿荘に名称変更 ('08 夏) / 大嶺ビルが内田荘に名称変更 ('09. 3) / 東会館新館オープン(液晶テレビ、ウォッシュレット付き) ('09. 4. 13) / 大和荘本館改築中 ('09. 5) / 松葉館改築予定 ('09. 5) 【医療】寿町診療所デイケアオープン ('09. 4. 13) 【訪問看護】ヨコハマホームケアサービス、オープン ('08. 11. 1) 【介護】長生堂ホームヘルパーオープン ('09. 2. 1) 【野宿者】'09 年 1 月現在県内の野宿者数は 18, 104 人、うち横浜市内は 697 人であった ('09. 3) / 横浜市、新たに「ホームレスの自立の支援等に関する実施計画」策定 ('09. 4) 【食堂】NHK 総合・ドキュメントにっぽんの現場「さなぎの食堂定食日記」放映 ('08. 11. 29) / さなぎ食堂リニューアルオープン ('09. 3. 30) 【配食サービス】「時代や」が配食サービスを始める ('08. 秋) 【非正規労働者】いすゞ自動車藤沢工場が約 960 人の非正規労働者に対し 12 月末での解雇を予告 ('08. 11) / 社員寮から退去を余儀なくされた非正規労働者のために神奈川県が県営住宅を低額で貸し出す対策、横浜市が市営住宅および簡易宿泊所の活用策を打ち出す ('08. 12) / 神奈川労働局が '08 年 10 月～'09 年 6 月までに県内で失職・失職見込みとなっている非正規労働者は 6, 865 人と発表 ('09. 5) 【青少年】寿生活館二階に「ことぶき青少年広場」オープン ('09. 2. 20) 【NPO】さなぎの家、センター1 階から富士食堂店舗跡に移転 ('09. 4) 【給付金】横浜市定額給付金制度の申請開始 ('09. 5)

(寿町関係資料室)

注 1: 文中の「改築」とは、従前の簡易宿泊所を完全に取り壊して新たに建築された場合を指します。注 2: 一部、2008 年 11 月以前のニュースを含みます。

# 退職の弁

看護師 小坂 文美

「あなたは何をそこで学んでいるのですか？ 助産とかけ離れているように思いますが」。助産学校受験の面接で聞かれた質問に私は「寿には愛があります。人の愛し方を学んでいます。暖かい診療所なんです。暖かい環境作りの勉強をさせていただいてます」。胸を張って答えました。

国際協力をしたくて看護師になり3年間働いた後、語学留学。その後、タイで熱帯医学を学びました。そこで出会った土屋先生に紹介していただき、診療所にやって来て5ヶ月。知らない日本がありました。今まで知ろうともしていなかったように思います。海外の貧しいと言われている場所に行き、手探りで何が出来るか探していたけれど、日本でも同世代の

人が派遣切りで路上をさまよう時代になりました。ことぶきの歴史、俊夫先生の奮闘を知り、支えあっている家族のような人々がいて、暖かい診療所がここにはありませんでした。だからか、患者さんも不思議と可愛い愛されるキャラの人々が多いように思います。『心が暖かくなるような診療所を作りたい』俊夫先生の願いが満たされていると感じます。長い付き合いの人々が多い中、風来坊の私を優しく包み込んでくれた診療所の皆さんに感謝します。後、たいして若くはないのに『若い』と可愛がってくださった患者様に感謝です。今日で会えるのが最後かもしれない…。ことぶきにはそんな患者様が数少なくなくいます。1日でも長生きして欲しい。暖かい気持ちになって欲しい。そんな俊夫先生の気持ちを大切に毎日働かせて頂きました。

今後は一旦、助産学生となり、生命の誕生の現場で働きます。一回り成長した後、また、ことぶきに帰って来たい。そんな気持ちでことぶきを後にします。5ヶ月間、ありがとうございました。

## 職員 自己紹介

鍼灸師 佐藤 木綿子

はじめまして。佐藤木綿子と申します。  
今年の一月より、週に三回、鍼灸院と資料室で働かせていただいています。

ことぶきとの出会いは、ことぶき共同鍼灸院で以前働いていた馬頭さんと鍼の勉強会でお会いし、こちらを紹介頂いたことでした。去年の12月に見学させていただき、あっという間に1月からこちらで働かせていただくことになりました。

こちらで働かせて頂く前は、横浜市内の訪問鍼灸マッサージの会社で働いていました。関内の老人ホームや在宅の患者さんの家を訪ねるために、寿町の脇、中村川沿いをよく車で走っていたのですが、すぐ近くにこんなディープな街があっ

たとは気づいていませんでした。

鍼灸院では、とっても優しく面白い新井院長、実は同じ鍼灸学校の先輩の富永先生(曜日が違ってなかなかお会いできないのですが)に続く三人目のスタッフとして頑張っていきたいと思います。治療というのは、鍼やお灸だけではなくて、お話やコミュニケーションもとっても大事なんだなあということを日々感じております。

資料室では、今は主に80年代の資料整理を担当させて頂いています。80年代のことぶきには、住民懇談会や共同保育、夜間学校や識字学校などなど、と実に幅広い活動が行われてきたことを知り、感動しています。つい資料を読みふけてしまいます。

鍼灸院、資料室ともに、ことぶきで働かせていただくことは、とても大切なことを教えていただいているような感じがします。患者さん、スタッフの皆さま、これからどうぞよろしく願いいたします。

# 診療所日誌

## 2008年11月～09年4月

### 11月 アルコールが一世風靡

- 11月6日 デイケアメンバーさん、しらみ・南京虫さわぎ
- 11月8日～9日 職員旅行（於：伊東温泉）初の観光バスにて
- 11月14日 デイケア、日帰り温泉旅行（七沢温泉）
- 11月18日 飲酒がらみで、大騒ぎな1日
- 11月19日 デイケアOさん、飲酒で毎日転倒。傷を増やしてやってくる
- 11月22日 稲子、玉ねぎ植え
- 11月23日 診療所、デイケアメンバーさんと共に床掃除とワックスがけ
- 11月30日 待合室のもみの木にクリスマスの飾りつけ

### 12月 結核騒ぎの年末でした

- 12月2日 「ことぶき診療所だより26号」発送
- 12月3日 旧院長の馬頭さんの紹介で、鍼灸師佐藤さん、見学に
- 12月10日 精神科の閉鎖病棟に4年間入院していたMさん、急遽退院。訪問看護を依頼し、在宅での体制敷く
- 12月12日 忘年会
- 12月16日 ハイリスク者検診受診者、塗沫+、ガフキー3も、PCRの結果待ちと入院に繋がらず
- 12月24日 精神科長期入院していたMさん、在宅生活は辛いと日野病院に入院後、救護施設へ/エコノミー納品/乳がんで未治療のFさん、ヘルパーさんからの紹介で初診。以後、処置のため受診
- 12月25日 デイケア、クリスマス会。バイオリン、リコーダーなど出し物盛りだくさん
- 12月26日 Oさん、結核疑にもかかわらず、年末のためか対応されず
- 12月28日 稲子、もちつき
- 12月30日 Oさん、PCRの結果がマイナスのため、感染症病棟含め、県下の病院受け入れ不可、年明けまで対応待ちとなる。
- 12月31日 デイケア、紅白を見て年越しそばを食べる

### 2009年1月 入退院の激しい年明けとなりました

- 1月6日 年明け初診療。スリップ者続出
- 1月8日 鍼灸師佐藤さん、毎週木曜日に勤務開始
- 1月9日 デイケア、鎌倉へ初詣
- 1月13日 デイケアOさん、2ヵ月間の説得の上入院同意するが、入院先探しに苦慮
- 1月15日 インフルエンザ流行のきざし
- 1月21日 デイケアOさん、入院
- 1月23日 デイケア、ろばの家と合同で餅つき
- 1月28日 てんぷら祭り開催

### 2月 一人でひっそりと亡くられる、そんな連絡が続きました

- 2月3日 デイケア、豆まき
- 2月6日 鍼灸師佐藤さん、木曜日に加え金曜日にも施術開始
- 2月10日 デイケアNさん、股関節の手術のため半年がかりでやっと入院
- 2月13日 岡田弘さん、自室で亡くなっているのを発見される
- 2月14日 新年会、中央病院と神奈川病院のケースワーカーさん来てくれる
- 2月中旬頃 若い新患さん増える
- 2月24日 佐藤さん、資料室勤務/ターミナルのSさん、一時的に退院。
- 2月25日 大量嘔吐者2名
- 2月26日 「寿 町ドヤ街5号」発刊
- 2月27日 デイケア、関西出身のNさん主催でお好み・たこ焼きを食べる

### 3月 デイケア、新しいメンバーさんが続々と増える

- 3月2日 岡田弘さん、茶毘にふされる。ご両親の元へ帰る
- 3月3日 吉浜町公園に桜の木を2本植える。全部で12本になる
- 3月4日 Sさんのカンファレンス（訪問看護師さん、ケアマネさん）
- 3月5日 稲子へジャガイモ植え
- 3月12日 中土木事務所より土を100kgもらい、吉浜町公園に草木を植える
- 3月13日 デイケア、三浦へ日帰り旅行（温泉・いちご狩り）
- 3月16日 レセコン新しくなる
- 3月19日 吉浜町公園に植えた桜の木、開花宣言
- 3月22日 診療所、デイケアメンバーさんと共に床掃除とワックスがけ
- 3月31日 デイケア10周年記念樹のしだれ桜を吉浜町公園に植える

### 4月 見学・実習に三重・滋賀・千葉などからみえる

- 4月2日 点滴多し（以後一週間）
- 4月7日 デイケア、森林公園へお花見
- 4月10日 デイケアNさん、股関節の手術を終え退院/京都でホームレス支援をされている「よりそいネット」の方2名見学に見える（～11日）
- 4月14日 デイケアNさん、急逝される。退院して4日目のことだった/神奈川病院を退院して行方不明だったMさん、真っ黒な姿で一週間ぶりに発見
- 4月16日 吉浜町公園愛護会会長に田中先生就任
- 4月25日 デイケアNさん、メンバーさんに見守られ茶毘にふされる（矢島 雅子）

# 医療法人 ことぶき共同診療所・鍼灸院ガイド

◇診療科目 精神科 神経科 心療内科  
科

内科 整形外科 鍼灸

## 診療所

	9時30分	12時	14時	17時30分
月	休診			
火	鈴木伸・菊田・宮崎	休 止	鈴木伸・菊田・宮崎	(精神科・神経科・内科)
水	菊田・土屋		菊田・土屋	(精神科・神経科・心療内科・内科)
木	鈴木伸・大脇・土屋		鈴木伸・大脇・土屋	(精神科・神経科・心療内科・内科・整形外科)
金	鈴木伸・土屋		田中・土屋	(精神科・神経科・心療内科・内科)
土	鈴木伸・三橋		整形外科・精神科・神経科・内科	

鈴木美奈子(隔週木曜午前 エコー検)

## 鍼灸院

(鍼灸院は予約制のため、お電話等で確認の上、ご来院ください)

	9時45分	13時	14時	18時
火	新井	休 止	新井	
水	新井・富永		新井・富永	
木	新井・佐藤		新井・佐藤	
金	新井・佐藤		新井・佐藤	

### ○保険扱い

国民健康保険 各種社会保険 生活保護 障害者自立支援法(その他、医療福祉相談も受け付けています)

### ○心理判定(月2回)

### ○寿町関係資料室

寿町にまつわる資料収集、調査研究を行う「資料室」を併設しています。

### ◇共同診療所・鍼灸院の所在地

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17

リバーハイツ石川町1・2F

### ◇でんわとファックス

(045) 651-2305 (診療所)

(045) 305-4322 (鍼灸院)



info@kyoudouclinic.com

e-mail

2009年6月16日現在